

令和5年度 自己評価書

令和6年1月12日(金)

学校法人アソカ学園朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもの持っている〈視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・言葉・身体・心〉の全感覚を開き、正しく導き、周りに対する意識をより感性豊かに広げていく道が《アソカ学園の教育の中心》であり、個々を認め、子どもの創造力・個性を伸ばしていきます。
【健康なからだ・おもいやりの心・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、引き出していけるよう、意識をして保育を展開していく。
また、言葉・伝え方など、丁寧な関り・適切な保育を心掛けていく。更に、昨年度同様に子どもたち自らが考え、選択し、行動していく“子どもの主体性”を引き続き意識し、教員の資質向上にも努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	
① 保育の計画性	「教育」というものを、いかに楽しく、育ちや学びに繋げていくかを心掛けた。また、繋がりのある保育、ねらいを重視した保育を進めてきた。 昨年度同様、日々細かな意識を大切にすることで、丁寧な保育に繋げていくことも継続的に実行してきた。	B
② 保育のあり方 児への対応	子どもたちの日々の様子や状況を職員間で共有し、一人ひとりがのびのびと、安心して生活できる環境を意識してきた。また、個性的な子どもたち、様々な家庭がある中、多様性を重視し、子どもたちの意思を尊重した保育を進めてきた。学年で多少異なるが、子どもと大人、子ども同士の対話に重きを置いてきた。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	朝田幼稚園の教師として、組織の一員である意識を高め、資質向上に努めている。教師としての姿勢、知識や言葉掛け等、改善意識は高くなってきているが、更なる向上が必要と感じる。	B
④ 保護者への対応	保護者の意見、要望については職員で共通理解し、改善していくように努めている。保護者も、園・職員に対して協調的であるが、さらに保護者の気持ちをくみ取り、より細かな配慮を今後も体現していく必要がある。	B
⑤ 地域の自然や社会 との関わり	昨年同様、小学校見学や施設との連携・協力のもと、遠足や、父母の会主催の古着販売など、行うことが出来た。例年との違いは、近隣の中学校、高校、大学の学生と触れ合う機会を大幅に増やしていくことができた。その反面、地域の大人の方々とのふれあいは難しく、今後の課題である。	A
⑥ 研修と研究	今年度は園内研修を2回行うことができ、学びの機会を増やしていくことができた。その反面、継続的に学ぶ姿勢を高めていく必要性を感じる。また、今年度よりアソカ学園で療育カウンセラーの職員を選任した。それにより、専門性の高いアドバイスが日々の保育の質向上につながった。	A
⑦ 外部アンケート	回答率は86.3%。回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。 様々な環境の多様性を重視することに伴い、合理的配慮が必要とされる園児への関わり方を、最善を尽くしていけるよう今後とも引き続き努力していく必要がある。	B

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

様々な場面で「保育の可視化」を意識し、朝田幼稚園の「教育観」をご家庭にも届けていく・伝えていく必要性を強く感じる。また、園と家庭の子どもの様子をお互い共有し、日頃から些細なことでもコミュニケーションをとることを意識することで、子どもにとって安心できる環境を心掛ける。
昨年度同様、子どもたちが「自ら考え、自ら選択し、自ら動く」主体性を育む保育を意識して取り組むこと。また、「楽しい!」という気持ちから「またやりたい」「もっとやりたい」という思いの中で、非認知能力や、幼児期に育てたい10の姿など、「生きる力」「学びに向かう力」が育まれる保育を目指す。
今後も業務のICTを活用し、教職員の労働環境の改善、事務仕事の簡略化を図り、子ども・保育に向き合う時間を増やしていけるよう試みる。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施 に関して、職員の共通 理解を図る	引き続き、職員同士の連絡事項や、意識の共有を行い、保育に取り組んでいく必要がある。また、心のケア、怪我の対応など、保育に関わりの深い専門的な知識を充実させていく重要性も強く感じる。
ICT及び機器の 理解・活用	各クラス、職員室にタブレット端末導入。園児の出欠席状況の把握、保育の見える化や、共通認識の向上を図った。 今後も継続及び改善を行い、更なる保育の資質向上を図る。ICTの使用手法も多方面で検討していく必要がある。
安全管理	「不適切な保育」がメディアでの報道もあり、聞こえてくる、又は目にする機会が多く感じた。当園でも改めて全職員に園長より、他の施設で起っている問題について話し、共通認識・意識向上を図った。今後も定期的に適宜改善していくことを心掛けていく必要がある。

1 幼稚園の教育目標

子どもの持っている〈視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・言葉・身体・心〉の全感覚を開き、正しく導き、周りに対する意識をより感性豊かに広げていく道が「アソカ学園の教育の中心」であり、個々を認め、子どもの創造力・個性を伸ばしていきます。
【健康なからだ・おもいよりの心・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、引き出していけるよう、意識をして保育を展開していく。
また、言葉・伝え方など、丁寧な関わり・適切な保育を心掛けていく。更に、昨年度同様に子どもたち自らが考え、選択し、行動していく「子どもの主体性」を引き続き意識し、教員の資質向上にも努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	「教育」というものを、いかに楽しく、育ちや学びに繋げていくかを心掛けた。また、繋がりのある保育、ねらいを重視した保育を進めてきた。昨年度同様、日々細かな意識を大切にすることで、丁寧な保育に繋がっていくことも継続的に実行してきた。	B	A
② 保育のあり方 幼児への対応	子どもたちの様子や状況を職員間で共有し、一人ひとりがのびのびと、安心して生活できる環境を意識してきた。また、個性的な子どもたち、様々な家庭がある中、多様性を重視し、子どもたちの意思を尊重した保育を進めてきた。	B	B
③ 教師として資質 能力、適正等	朝田幼稚園の教師として、組織の一員である意識を高め、資質向上に努めている。教師としての姿勢、知識や言葉掛け等、改善意識は高くなってきているが、更なる向上が必要と感じる。	B	B
④ 保護者への対応	保護者の意見、要望については職員で共通理解し、改善していくように努めている。保護者も、園・職員に対して協調的であるが、さらに保護者の気持ちをくみ取り、より細かな配慮を今後も体現していく必要がある。	B	B
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	昨年同様、小学校見学や施設との連携・協力のもと、遠足や、父母の会主催の古着販売など、行うことが出来た。例年との違いは、近隣の中学校、高校、大学の学生と触れ合う機会を大幅に増やしていくことができた。その半面、地域の大人の方々とのふれあいは難しく、今後の課題である。	A	A
⑥ 研修と研究	今年度は園内研修を2回行うことができ、学びの機会を増やしていくことができた。その半面、継続的に学ぶ姿勢を高めていく必要性を感じる。また、今年度よりアソカ学園で療育カウンセラーの職員を選任した。それにより、専門性の高いアドバイスが日々の保育の質向上につながった。	A	A
⑦ 外部アンケート	回答率は86.3%。回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。様々な環境の多様性を重視することに伴い、合理的配慮が必要とされる園児への関わりにも最善を尽くしていけるよう今後も引き続き努力していく必要がある。	B	B

* 結果の表示方法
A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

様々な場面で「保育の可視化」を意識し、朝田幼稚園の「教育観」をご家庭にも届けていく・伝えていく必要性を強く感じる。また、園と家庭の子どもの様子をお互い共有し、日頃、細かなことでもコミュニケーションをとることを意識することで、子どもにとって安心できる環境を心掛ける。
昨年度同様、子どもたちが「自ら考え、自ら選択し、自ら動く」主体性を育む保育を意識して取り組むこと。また、「楽しい!」という気持ちから「またやりたい」「もっとやりたい」という思いの中で、非認知能力や、幼児期に育てたい10の姿など、「生きる力」「学びに向かう力」が育まれる保育を目指す。
今後も業務のICTを活用し、教職員の労働環境の改善、事務仕事の簡略化を図り、子ども・保育に向き合う時間を増やしていけるよう試みる。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施に関して 職員の共通理解を図る	引き続き、職員同士の連絡事項や、意識の共有を行い、保育に取り組んでいく必要がある。また、心のケア、怪我の対応など、保育に関わりの深い専門的な知識を充実させていく重要性も強く感じる。
ICT及び機器の活用・応用・改善	各クラス、職員室にタブレット端末を導入。園児の出欠席状況の把握、保育の見える化や、共通認識の向上を図った。今後も継続及び改善を行い、更なる保育の資質向上を図る。ICTの使用手法も多方面で検討していく必要がある。
安全管理	「不適切な保育」がメディアでの報道もあり、聞こえてくる、又は目にする機会が多く感じた。当園でも改めて全職員に園長より、他の施設で起っている問題について話し、共通認識・意識向上を図った。今後も定期的に適宜改善していくことを心掛けていく必要がある。

6 学校関係からのコメント

園児が減少している事はマイナスかもしれないが、一人ひとりの様子がよく見られるプラス面もある。もっと前向きにとらえて保育の充実を図っていけると、時代に合わせた保育が展開できると思う。
コロナ規制が緩和され、地域との交流も検討できるようになったからこそ、地域の特技のある人々が園児に披露できたり触れ合えたりする機会を作ってもらえたら嬉しい。

令和5年度 自己評価書

令和5年12月22日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。活動を計画する際、前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てている。また、各クラス子どもの興味があるもの、取り組みたいことを常に捉え、時期や成長に合わせての保育を考え取り組むよう心掛けている。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	B
②保育のあり方 幼児への対応	今年度は、いままで以上に子どもたちが興味を持ち、そして発展していく活動を考え、取り入れていく中で援助の仕方、声の掛け方等職員で日々検討している。活動が終わった際には、「育てたい10の力」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーキットあそびなど園内のあちこちに自由にできるコーナーを用意し、運動、制作、表現あそびなど、様々な活動を自分たちで発展していけるよう環境づくりを行っている。	A
③教師としての資質 能力、適性等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を進め、保育に取り入れれたり、他の先生に提案をしたりして保育の質を高め合っていきたい。	B
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるといふところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ学園で話し合い、模索しながら行っている。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。 また月ごとに保育の写真を園内に掲示し、クラス、学年、園での活動の様子を伝えている。ホームページも学期に2回程度更新しているが、今後も内容、時期を検討し充実させていきたい。	B
⑤地域の自然や地域 との関わり	毎月幼稚園バスに乗ってアソカ学園の他幼稚園や、農園での野菜の収穫、市運営の施設（科学館、子ども館など）などに出かけている。また、父母の会企画のお面作りでは、各学年の子どもたちにあつたお面を一緒に作り、楽しい時間を過ごすことができた。今年度は年長児が竜禅寺小学校に訪問したり、南部中学校の生徒が体験学習を行ったりと、地域交流も再開することができた。今後も活動内容を検討し、体験活動を増やしていきたい。	B
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。日々の活動の指導案作成にあたり、「幼児期に育てたい10の力」について、先生一人一人が考え重点目標を決め、取り組んでいる。また、年数回の学年会や、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図っている。	A
⑦外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認することで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えていきたい。	A

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりのワクワク感や充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より好奇心を引き出す環境を作ることを人的環境、物的環境の両面から考え、試行錯誤しながら進めていった。今では子どもたちも自分で作った折り紙や紙芝居、制作物などを自ら披露したり、ダンスや体操では、舞台を作っているいろいろな曲を踊ったり、身近な楽器で友だちと合奏を楽しんだりする姿があちこちで見られるようになった。今後も子どもたちの好奇心を刺激し、自ら取り組んでいく環境を考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行い、部屋の換気や掃除、消毒に取り組んだ。 朝や帰りの自由あそびでは、なわとび、ボールあそび、マラソンなど、身体を楽しく動かすあそびを呼びかけ、子どもたちが自ら運動あそびに取り組めるよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサーキットあそびなども行った。
社会・地域とのかかわり	今年度は、中学生の体験学習や、小学校への訪問など、少しではあるが交流を再開することができた。またアソカ農園やアソカ学園の他幼稚園への訪問、公園や市の施設訪問など、各学年毎月遠足に出かけることができた。 また交通教室では、年長の子どもたちが地域を歩く体験も取り入れ、小学校へとつなげている。今後はさらに近隣の小学校、中学校や施設など地域との関わりを深め、みんなで作る社会を目指していきたい。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあっていく。 園バスにドライブレコーダー、緊急ベルを設置し、乗務員の毎朝の健康観察やバスキャッチを中心とした園児の登降園状況を確認している。 災害に備え、毎月1回避難訓練を行っている。地震、火事、川の氾濫など想定を変え取り組み、職員全員で改善方法を考えたり、スムーズな避難を提案したりして、園全体で取り組んでいる。

令和5年度 学校関係者評価書

令和6年1月17日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいよりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日指導案を立てて保育に取り組んでいる。活動を計画する際前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てている。また各クラスの子どもの興味があるもの、取り組みたいことを常に捉え、時期や成長に合わせて保育を考え取り組むよう心掛けている。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	B 例えば運動会で、星組がポンポンを持って踊る競技を取り入れる場合、7月から自由あそびで、ポンポンを使って慣れ親しんでいくなど、活動に親しみやすいような工夫があちこちで見られた。また、子どもたちが折り紙やあやとりなど、「先生に教えてもらった」「先生と一緒にやってみた」と家でも一生懸命に折ったり、取り組んだりしていて、いろいろな体験をしていることがわかる。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	今年度は、今まで以上に子どもたちが興味を持ち、そして発展していく活動を考え取り入れていく中で援助の仕方、声の掛け方等職員で日々検討している。活動が終わった際には、「育てたい10の力」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーキットあそびなど園内のあちこちに自由にできるコーナーを用意し、運動、制作、表現あそびなど、様々な活動を自分たちで発展していけるよう環境づくりを行っている。	A 駅南は、外国人も多く言葉がわからない子もいると思うが、どの子も楽しく過ごしている。一人ひとりの好きなことや、その子のペースを担当の先生だけでなく、いろいろな先生が知って声をかけているので、安心してすごせているのだと思う。	A
③ 師として資質、能力、適正等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を進め、保育に取り入れたり、他の先生に提案をしたりして保育の質を高め合っていきたい。	B アソカ学園は6ヶ園あるので、先生たちの交流もあって、相談や情報交換ができていと思う。小学校の授業もどんどん変化している。時代にあった教育をこれからも考えて進んでいってほしい。	A
④ 保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ全園で話し合い、模索しながら行っている。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。 また月ごとに保育の写真を園内に掲示し、クラス、学年、園での活動の様子を伝えている。	B 保育園のように毎日様子を伝えたり、細かい報告はないが、子どもたちは幼稚園の話や家に帰って話すことが多い。子どもの話から、自分で考えたことや、今日の出来事など園での様子がわかるし、駅南幼稚園の子は自分から話し出す子が多いと思う。日々の保育の中で、自分の思いを伝えあう経験が生きているのだと思う。また、これからの教育や子育てについてのアドバイスもどんどん発信してほしい。	B

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

⑤ 地域の自然や地域との関わり	毎月幼稚園バスに乗ってアソカ学園の他幼稚園や、農園での野菜の収穫、市運営の市設などに出かけている。また父母の会企画のお面作りでは、各学年の子どもたちにお面を一緒に作り、楽しい時間を過ごすことができた。今年度は年長児が竜禅寺小学校を訪問したり、南部中学校の生徒が体験学習を行ったりと、地域交流も再開することができた。今後も活動内容を検討し、体験学習を増やしていきたい。	B	地域のおまつりや行事は復活してきたが、コロナを心配し、参加する家庭が少なくなっている。子ども会も地域によってなくなっているところや、懇談会ができなくなっている小学校もある。大人も子どもも以前のようなコミュニケーションを取りにくくなっている時代だからこそ、幼稚園では子どもたちが顔を見て話をしたり、自分の思いを伝えあう時間を大切にしていってほしい。	B
⑥ 研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。日々の活動の指導案作成にあたり、「幼児期に育てたい10の力」について、先生一人一人が考え重点目標を決め、取り組んでいる。また、年数回の学年会や、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図っている。	A	アソカ学園の先生全員で夏に研修を行っていることを「アソカの園」で知ることができた。6ヶ園ならではの取り組みで、今後も楽しみです。	A
⑦ 外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認することで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えていきたい。	A	スマホでの回答なので、簡単に行うことができた。ただ、見ただけで忘れてしまう保護者もいるのではないかなと思う。	B

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりのワクワク感や充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より好奇心を引き出す環境を作ることを人的環境、物的環境の両面から考え、試行錯誤しながら進めていった。今では子どもたちも自分で作ったり折り紙や紙芝居、制作物などを自ら披露したり、ダンスや体操では舞台を作っているいろいろな曲を踊ったり、身近な楽器で友だちと合奏を楽しんだりする姿があちこちで見られるようになった。今後も子どもたちの好奇心を刺激し、自ら取り組んでいく環境を考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行い、部屋の換気や掃除、消毒に取り組んだ。 朝や帰りの自由あそびでは、なわとび、ボールあそび、マラソンなど体を楽しく動かすあそびを呼びかけ、子どもたちが自ら運動あそびに取り組めるよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサーキットあそびも行った。
社会・地域とのかかわり	今年度は、中学生の体験学習や、小学校への訪問など、少しではあるが交流を再開することができた。またアソカ農園やアソカ学園の他幼稚園への訪問、公園や市の施設訪問など、各学年毎月遠足に出かけることができた。 また交通教室では、年長の子どもたちが地域を歩く体験も取り入れ、小学校へとつなげている。今後はさらに近隣の小学校、中学校や施設など地域との関わりを深め、みんなで作る社会を目指していきたい。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全段で認識し、確認しあっていく。 園バスにドライブレコーダー、緊急ベルを設置し、乗務員の毎朝の健康観察やバスキャッチを中心とした園児の登降園状況を確認している。 災害に備え、毎月1回避難訓練を行っている。地震、火事、川の反乱など想定を変えて取り組み、職員全員で改善方法を考えたり、スムーズな避難を考えたりして、園全体で取り組んでいる。

令和5年度 自己評価書

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。 <健康なからだ> <おもいやりの心> <たくましい創造力>
--

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保育の計画性	活動を計画する際、指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。「幼児期に育てたい10の姿」を常に意識し、保育内容などに反映するよう、援助の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今後も、子どもの様子に見合った活動内容を充実させていきたい。	B
② 保育のあり方・ 幼児への対応	子どもが自らの考えで活動やあそびを作り上げていくことを目指し、援助の仕方、声の掛け方等を学年間を中心に話し合っている。活動後には、立案や週案を通して、「育てたい10の姿」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また特別な支援が必要な園児に対し、どのように応じていくか日々検討している。	A
③ 教師として資質、 能力、適正等	教務専任の先生を交え、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を継続して行っている。進め方が定着していく中で、学園内の同じ学年の先生同士での意見交換も、積極的になっている。今後も、子どもたちに必要な力を育てるための、保育のあり方について、研究していきたい。	A
④ 保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取組みを考えていくようにしている。今年度は、コロナ禍前のような行事の在り方に、徐々に戻していき、より保護者から見える幼稚園になるよう努力した。また、保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ全園で話し合いながら取り組んでいる。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。	A
⑤ 地域の自然や社会 との関わり	今年度は、幼稚園バスに乗っての遠足も範囲を広げていった。アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度遠足等を計画し、地域や自然に触れるようにしている。また、父母の会企画のもと、役員さんが日を決めてボランティアを募り、子どもたちのあそびの援助を通して、交流を行っている。	B

⑥ 研修と研究	浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、個別参加をして、自らの視野をひろげようと努めた。また、終礼の時間を利用して、他学年の卒を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。 年に数回だった学年会も回数が増え、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。 夏の職員研修では、教務専任者を中心に実技や事例を元に話し合うことができた。	B
⑦ 外部アンケート	回答率は77.8%。前年度と比較し、若干回答率が下がった為、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、回答結果を元に職員全員で考えていきたい。	

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

コロナ禍が明け、コロナ禍以前のような活動を少しずつ取り入れていくことで、幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。保護者からの今まで以上の支援・協力により、行事や日々の活動を行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感することができた。
--

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
丈夫な身体に	体を動かす活動を中心に、外で元気にあそぶ時間を多く設けた。ボールあそびや、なわとび、リレーごっこ以外にも、様々なルールの鬼ごっこなど、子どもたちが自発的に体を動かして楽しむよう取り組んだ。
社会・地域 とのかかわり	今年度も例年行っていた小学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験は受け入れることができた。アソカ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに園外に出かけた。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し確認しあっている。 園バスに装備されているドライブレコーダーや、今年度取り付けした安全装置も有効に使いながら、職員間での安全認識会議を年度初めに強化していくようにした。また、毎日、乗務員のアルコールチェックも行っている。 毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防署による園舎点検などを行っている。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	活動を計画する際、指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。「幼児期に育てたい10の姿」を常に意識し、保育内容などに反映するよう、援助の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今後も、子どもの様子に見合った活動内容を考えていきたい。	B	A
② 保育のあり方 幼児への対応	子どもが自らの考えで活動やあそびを作り上げていくことを目指し、援助の仕方、声の掛け方等、学年間を中心に話し合っている。活動後には、「育てたい10の姿」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また特別な支援が必要な園児に対し、どのように応じていくか、日々検討している。	A	A
③ 教師として資質、 能力、適正等	教務専任の先生を交え、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を継続して行っている。進め方が定着していく中で、学園内の同じ学年の先生同士での意見交換も、積極的になってきている。今後も、子どもたちに必要な力を育てるための、保育のあり方について、研究していきたい。	A	A
④ 保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまで求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。今年度は、コロナ禍前のような行事の在り方に、徐々に戻していき、より保護者から見える幼稚園になるよう努力した。また、保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ全園で話し合いながら取り組んでいる。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。	A	A
⑤ 地域の自然や 地域との関わり	今年度は、幼稚園バスに乗っての遠足も範囲を広げていった。アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度、遠足等を計画し、地域や自然に触れるようにしている。また、父母の会企画のもと、役員さんが日を決めてボランティアを募り、少人数ではあるが子どもたちのあそびの援助を通して、交流を行っている。	B	A

⑥ 研修と研究	浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、個別参加をして、自らの視野をひろげようと努めた。また、終礼の時間を利用して、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。年に数回だった学年会も回数が増え、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。夏の職員研修では、教務専任者を中心に、実技や事例を元に話し合うことができた。	A	なかなか時間が取りにくいであると思われるが、先生方の研究、探求への取り組み姿は、日頃の保育にも表れているのではない。研修とは違うが、③同様、近隣の小学校との連携を取ったり、様子を知る機会が持てる方がより良いのではないだろうか。	A
⑦ 外部アンケート	回答率は77.8%。前年度と比較し、若干回答率が下がった為、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、職員全員で考えていきたい。			

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

コロナ禍が明け、コロナ禍以前のような活動を少しずつ取り入れていくことで、幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。保護者からの、今まで以上の支援、協力により、行事や日々の活動を行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	身体を動かす活動を中心に、外で元気にあそぶ時間を多く設けた。ボールあそびや、縄跳び、リレーごっこ以外にも、様々なルールの鬼ごっこなど、子どもたちが自発的に身体を動かして楽しむよう取り組んだ。
社会・地域とのかかわり	今年度も例年行っていた小学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験を受け入れた。アソカ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに園外に出かけた。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し確認しあっている。園バスに装備されているドライブレコーダーや、今年度取り付けた安全装置も有効に使いながら、職員間でバスの安全認識会議を年度初めに強化していくようにした。毎日の、乗務員のアルコールチェックも行っている。毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防署による園舎点検などを行っている。

令和5年度 自己評価書

令和5年12月18日
アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、『賢く・優しく・遅しく・朗らか』に育つよう導く。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力と人間力アップに努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	コロナ対応が緩和され、従来の日常保育や教育行事を取り戻しながら、なお一層の良質な保育を実践した。	A
② 保育のあり方・幼児への対応	健康視診や適切な言葉がけ、保育中の出来事など、教職員間の情報共有に時間を十分取り保育に努めた。	A
③ 教師として資質能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力（人間性と社会性）アップを心掛け、社会動向にも意識を向けられるように努めた。	A
④ 保護者への対応	感染症予防を怠る事なく、参観会や教育行事等に来園してもらい、教育活動に対する理解を得ることができた。	A
⑤ 地域の自然や社会との関わり	同学園内同士、相互に園を訪問し園児との交流を持っている。教員も他園の様子に触れ研修の一助となっている。	B
⑥ 研修と研究	同学園内の学年会（担任）の実施回数を増やし、保育実践や内容の研修、各園で起きた事象に触れる事で、自身の保育を検証する機会が充実してきている。	B
⑦ 外部アンケート	12項目中3項目で2，1評定がゼロとなり、4項目で4評定が80%以上で、概ね良好との評価だった。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない
B 達成されている D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多彩な植物や昆虫等に触れる機会が多くあり、興味関心を高めている。

近年、「美波らしい保育」を教職員の心柱とし充実を図っている。園児の心と体と脳がエモーショナルに揺らぎ、成長エネルギーに変換できるような機会、教師の関りを展開するよう努めている。“知育・徳育・体育”に特化した保育実践ではなく、日々の遊び（生活）の中で、自らが体感し『賢く・優しく・遅しく』そして朗らかな子どもたちが育ち合えるように、教職員は努めた。

発達支援が必要な園児に加え、通常よりも手厚い寄り添いの必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践が進められた。

園児個々の成長値を考慮した保育、多岐にわたる保護者対応に適切に対応できる教員の『現場保育力と人間力』向上に繋がる職員間のコミュニケーションも重視した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
働き方改革に伴う、保育と業務の質低下防止	勤務時間明細化の中でも、教職員間の連携やスキルアップを重視し、多面的で良質な教育運営の形が整ってきた。今後も、効率優先だけに捕らわれず、良質な保育を充実させる。
発達支援が必要な園児、それに順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談機会を増やす等）を得ながら、より良い成長に向かうよう取り組む。
保護者・子育て世代への幼児教育理解の促進	多様で親世代の思考も多岐にわたる現代。政府主導の「保育サービス」優先の風潮。当たり前の一般良識すら変化する中で、子どもたちが将来、幸せなライフワークバランスが保てる社会人に成長する為の“幼児教育・学校教育”を理解してもらえよう、在園生活の中で気づいてもらえるよう啓発する。

令和5年度 学校関係者評価書

(学)アソカ学園 美波幼稚園長 橋本憲幸
美波幼稚園 学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、『賢く・優しく・遅しく・朗らかに』育つように導く。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力と人間力アップに努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	コロナ対応が緩和され、従来の日常保育や教育行事を取り戻しながら、良質な保育実践に努めた。	A 「美波らしさ」を念頭に置いた良質な教育活動が実践されていました。教職員のチームワークが良いです。
② 保育のあり方 幼児への対応	健康視診や適切な言葉がけ、保育中の出来事など、教職員間の情報共有に時間を十分とり保育に努めた。	A 教職員間でしっかりとした情報共有が出来ていて、子ども理解に繋がっています。
③ 教師として資質 能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力(人間性と社会性)アップを心掛け、社会動向にも意識を向けられるように努めた。	A 明るく元気で魅力的な先生たちが子どもと一緒に生活してくれています。
④ 保護者への対応	感染症予防を怠ることなく、参観会や教育行事等に来園してもらい、教育活動に対する理解を得ることができた。	A 担当クラス以外の教師からも、いろんなお話や子供の様子を聞いてありがたいです。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	同学園内同士、相互に園を訪問し園児との交流を持っている。教員も他園の様子に触れ研修の一助となっている。	B 同学園内の交流が頻繁にあり、アソカ学園ならではの教育活動として有効と感じる。
⑥ 研修と研究	同学園内の学年会(担任)の実施回数を増やし、保育実践や内容の研修、各園で起きた事象に触れる事で、自身の保育を検証する機会が充実してきている。	B 毎日の終礼(職員対話の時間)に重きを置き、現場事象の共有をしている。個々のスキルアップを目指した研修参加をしている。
⑦ 外部アンケート	12項目中3項目で2・1評価がゼロとなり、4項目でA評価が80%以上で、概ね良好との評価を得た。	A 保護者の理解と好意的な結果です。

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

・恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多様な植物や昆虫等に触れる機会が多くあり、興味関心を高めている。

・近年、「美波らしい保育」を教職員の心柱とし充実を目指している。園児の心と体と脳がエモーショナルに揺らぎ、成長エネルギーに変換できるような機会、教師の関りを展開するよう努めている。“知育・徳育・体育”に特化した保育ではなく、日々の遊び(生活)の中で、自らが体感し『賢く・優しく・遅しく』そして『朗らかな子どもたち』が育ち合えるように、教職員は努めた。

・発達支援の必要な園児に加え、通常よりも厚い寄り添いの必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践が進められた。

・園児個々の成長を考慮した日常保育、多岐にわたる保護者対応に適切に対応できる教員の『現場保育力と人間力』向上に繋がる職員間のコミュニケーションも重視した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
発達支援が必要な園児、 順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解(面談機会を増やす等)を得ながら、より良い成長に向かうよう取り組む。
保護者・子育て世代への 幼児教育理解の促進	多様で親世代の思考も多岐に渡る現代。政府主導の「保育サービス」優先の風潮。当たり前の一般良識すら変化する中で子供たちが将来、幸せなライフワークバランスが保てる社会人に成長する為の基盤である“幼児教育・学校教育”を理解してもらえるよう、在園生活の中で気づいてもらえるよう啓発する。
働き方改革に伴う保育と 他業務の質低下防止	勤務時間明細化の中で、教職員間の連携やスキルアップを重視し、多面的で良質な教育運営の形が整ってきた。今後も効率優先だけに捕らわれず、良質な保育を充実させる。

令和5年度 自己評価書

令和5年12月23日
アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』
○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携
○ 期待や意欲を持つ

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	園内研修で教育要領の理解が深まり、子どもの主体性を引き出す活動も増えた。	B
② 保育のあり方 幼児への対応	安全管理に対しての園内研修を継続的に行ない、園全体で意識を持てるようしている。	B
③ 教師として資質 能力、適正等	子どもがいろいろな部屋を行き来する活動をする中で、教師のチーム感が増した。	A
④ 保護者への対応	活動の様子等はアプリなどで伝えられているが、成長の様子をより伝えていきたい。	B
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	園外の人や施設とのかかわりや園外保育も意図的に増やすことが出来た。	A
⑥ 研修と研究	曜日ごとにテーマを決めて、園内研修を行い、バランスよく意識が高まっている。	A
⑦ 外部アンケート	各項目「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」の平均が98%以上と良好であった。	A

* 結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～子どもも大人もワクワク！～

- 意欲がつながる
子どもたちと1日の振り返りの時間を設け、たくさんの声を集め活動に取り入れるようになって、活動や発言にイキイキとした姿が増えてきたので継続していきたい。
- 人とつながる
異年齢児活動やPMT活動が思い切りできたことで、様々な効果が見られた。そこから、様々なクラス同士の交流活動や異年齢クラスでの園外保育等に広がった。
- 保護者とつながる
個々での関わりは積極的に行えているが、基本はバス送迎の為、接点を持つ機会がまちまちなので全体的に伝えきれていない部分もある。そこを補えるようにアプリを利用して普段の姿や個々の育ちが見えるものになるよう工夫している。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者の スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 園内やアソカ学園のスケールメリットを活かし、学園内で保育者同士が保育を見せ合い、お互いの保育の内容を元に研修する。 ● 園内研修で学んだことと外部の研修会で学ぶことがリンクするよう園内研修を計画的に行う。
子ども同士の かかわりのひろがり	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流活動を進めていく中で、他のクラスとの交流も自然と増えてきているので、この広がりや深まりのつながりを想定して計画を立てていく。 ● アソカ学園のスケールメリットを活かし、学園内の他の幼稚園の子とあそぶなど計画していく。

令和 5 年度 学校関係者評価書

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園学校関係者評価委員会

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園長 田村都弥

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』

○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	園内研修で教育要領の理解が深まり、子どもの主体性を引き出す活動も増えた。	B つながる教育という教育目標を実現されている。 A
② 保育のあり方 幼児への対応	安全管理に対しての園内研修を継続的に行ない、園全体で意識を持てるようしている。	B 安全管理に対して様々な側面から、園全体で意識を持って対応している。 A
③ 教師として資質 能力、適正等	子どもがいろいろな部屋を行き来する活動をする中で、教師のチーム感が増した。	A 教職員間の雰囲気が高く、情報共有や協力体制がとれていると感じる。 A
④ 保護者への対応	活動の様子等はアプリなどで伝えられているが、成長の様子をより伝えていきたい。	B 子どもの成長は連絡帳や実際の会話でわかりやすく伝えてくれている。 A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	園外の人や施設とのかかわりや園外保育も意図的に増やすことが出来た。	A コロナも落ち着き、園外とのかかわりを多く取ろうとしている。 A
⑥ 研修と研究	曜日ごとにテーマを決めて、園内研修を行い、バランスよく意識が高まっている。	A 様々なことに意識をもって、積極的に研究出来ていると感じる。 A
⑦ 外部アンケート	各項目「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」の平均が98%以上と良好であった。	A ほとんどの保護者が満足していることに納得できる。 A

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～子どもも大人もワクワク！～

● 意欲がつながる

子どもたちと1日の振り返りの時間を設け、たくさんの声を集め活動に取り入れるようになって、活動や発言にイキイキとした姿が増えてきたので継続していきたい。

● 人とつながる

異年齢児活動やPMT活動が思い切りできたことで、様々な効果が見られた。そこから、様々なクラス同士の交流活動や異年齢クラスでの園外保育等に広がった。

● 保護者とつながる

個々での関わりは積極的に行えているが、基本はバス送迎の為、接点を持つ機会がまちまちなので全体的に伝えきれていない部分もある。そこを補えるようにアプリを利用して普段の姿や個々の育ちが見えるものになるよう工夫している。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 園内やアソカ学園のスケールメリットを活かし、学園内で保育者同士が保育を見せ合い、お互いの保育の内容を元に研修する。 園内研修で学んだことと外部の研修会で学ぶことがリンクするよう園内研修を計画的に行う。
こども同士の かかわりのひろがり	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動を進めていく中で、他のクラスとの交流も自然と増えてきているので、この広がりや深まりのつながりを想定して計画を立てていく。 アソカ学園のスケールメリットを活かし、学園内の他の幼稚園の子とあそぶなど計画していく。

令和5年度 自己評価書

令和6年1月24日
アソカ学園 百花幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開 子どもたち一人ひとりの「自分らしさの追求」
*健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿を考慮しながら教育を進めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
①保育の計画性	活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をし、活動が展開することができた。	A
②保育のあり方 ・幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A
③教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B
④保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B
⑤地域の自然や社会 との関わり	昨年比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等で出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかったことが残念であった。	B
⑥研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多くなったが、制限のある中でも参加することができた。	A
⑦外部アンケート	回答率は92%と去年と比べてあがりました。ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A

- *結果の表示方法
- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が充分でない
 - D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※子どもたちが安心して活動に取り込めるように、教師が肯定的な言葉がけを心掛けて、子どもたちの長所をたくさん捉えるように心がけている。子どもたちも肯定的な言葉がけをしてもらうことで安心して園生活を過ごしている。

※子どもたちが自分で判断して行動できるアクティブラーニング的（主体的・対話的・深い学び）援助を心掛けた。

※今年度もコロナ感染予防のために活動が制限されることも多くあったが、活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じることができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	保護者が安心して園児を登園させることができる情報や対応をしていく。アプリ等でも、必要な情報を伝達した。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開 子どもたち一人ひとりの「自分らしさの追求」 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育てたい「10の姿」を考慮しながら教育を進めていく。

評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	コロナ禍の中でも、活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をし、活動が展開することができた。	A 園児の活動を最優先に考えながら、できる限りの企画を立てて実践できた。父母の会は、夏祭りの昼間の夜店や餅つきも3日は園児にも体験ができた。
② 保育のあり方 幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A 園児のやりたいことを十分にイメージさせや表現の自由を認めることを大切にして、任せたり、見守ったりして程良い援助を心掛けた。
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B 通常の教育活動はもちろんのこと、様々な行事にも園児の活動をイメージして、細心の注意を払って活動を実践できた。 また、学年団の計画、相談を重視して取り組むと共に、職員全体での活動も共同・協力的に実践できた。
④ 保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B 「れんらくアプリ」は、ほぼ毎日、園児の成長や特徴的な活動の様子を詳細に伝達できた。また、気になる園児の様子は、的確に電話連絡できた。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	昨年と比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等に出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかったことが残念であった。	B 園外保育が毎学期実施することができた。中学校2・3年生の総合の時間、家庭科の保育実習を受け入れたり、大根堀りを保護者の実家と協力して地域の畑で行ったりして円滑な実践ができた。
⑥ 研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多くなったが、制限のある中でも参加することができた。	A コロナ禍で会合への参加は少なかった。園での研修は毎日の終令で話し合ったり、行事の後に、反省会を行ったりして研修を深めている。
⑦ 外部アンケート	回答率は92%と去年と比べて変化はなく、ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A 肯定的な回答が多いため、否定的な意見にも目を向けて、今後の実践に生かすよう考慮した。

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※子どもたちが安心して活動に取り込めるように、教師が肯定的な言葉がけを心掛けて、子どもたちの長所をたくさん捉えるように心がけている。子どもたちも肯定的な言葉がけをしてもらうことで安心して園生活を過ごしている。 ※子どもたちが自分で判断して行動できるアクティブラーニング的（主体的・対話的・深い学び）援助を心掛けた。 ※今年度もコロナ感染が第5類に移行され、活動の制限が緩和される中で、活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じる事ができた。
--

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	コロナウィルスが5類となり、今までできなかった行事を見直したり、改善したりする中での1年間でした。なお、インフルエンザ感染、保護者が安心して園児を登園させることができる情報や対応を行っていった。行事の見直しや精選を行って、更に園児も保護者にも有意義な学園運営を構築していきたい。行事だけでなく、日々の子供の成長をアプリやホームページにて紹介することで、運営の充実を図りたい。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。アソカ学園の理念である「遊びから創造へ」と子どもが将来に向けて育てるべき資質や思考力・協力性をさらに高める保育の実践にあたりたい。